

発行 車体発18第142号
2018年5月28日

日本自動車車体工業会70年史発刊

日本自動車車体工業会では2018年4月8日に70周年を迎えました。先日、5月25日の2018年度通常総会にて70年史を発刊しましたことのお知らせします。

以下、日本自動車車体工業会70年史発刊にあたっての綱岡会長挨拶文：

車体工業会はおかげさまで、本年4月に創立70周年を迎えることができました。

当工業会は戦後の1948年4月に当時の車体工業組合を解散、新たに「自動車車体工業会」として誕生し、その後改称、改組を行ってきました。そして2011年4月には、行政改革の一環で公益法人のあり方を見直した「公益法人改革法」への対応として一般社団法人へ移行し、現在に至っております。

また、当工業会は、トラック、バンの荷台架装やバス車体、トレーラや各種特装車である「働くクルマ」の製造会社の団体としてスタートし、1965年には車体架装に関連する材料や部品の製造、販売を行っている会社で構成する資材部会が発足しました。これにより、材料、部品、車体架装の連携強化が図られ、安全・環境問題に対応した自動車車体に関する業界基準である「JABIA規格」の制定や難燃内装材登録に繋がっています。

社会の環境変化にともない、ひとの動きやものの動きも変わり、「働くクルマ」に求められる内容も変化してきました。当工業会会員は「一点一葉」のものづくりの技術、技能を有し、お客様の要望を実現しています。当工業会会員が架装する車体は多岐にわたり、様々なシーンで活躍し、社会生活には必要不可欠なものとなっています。

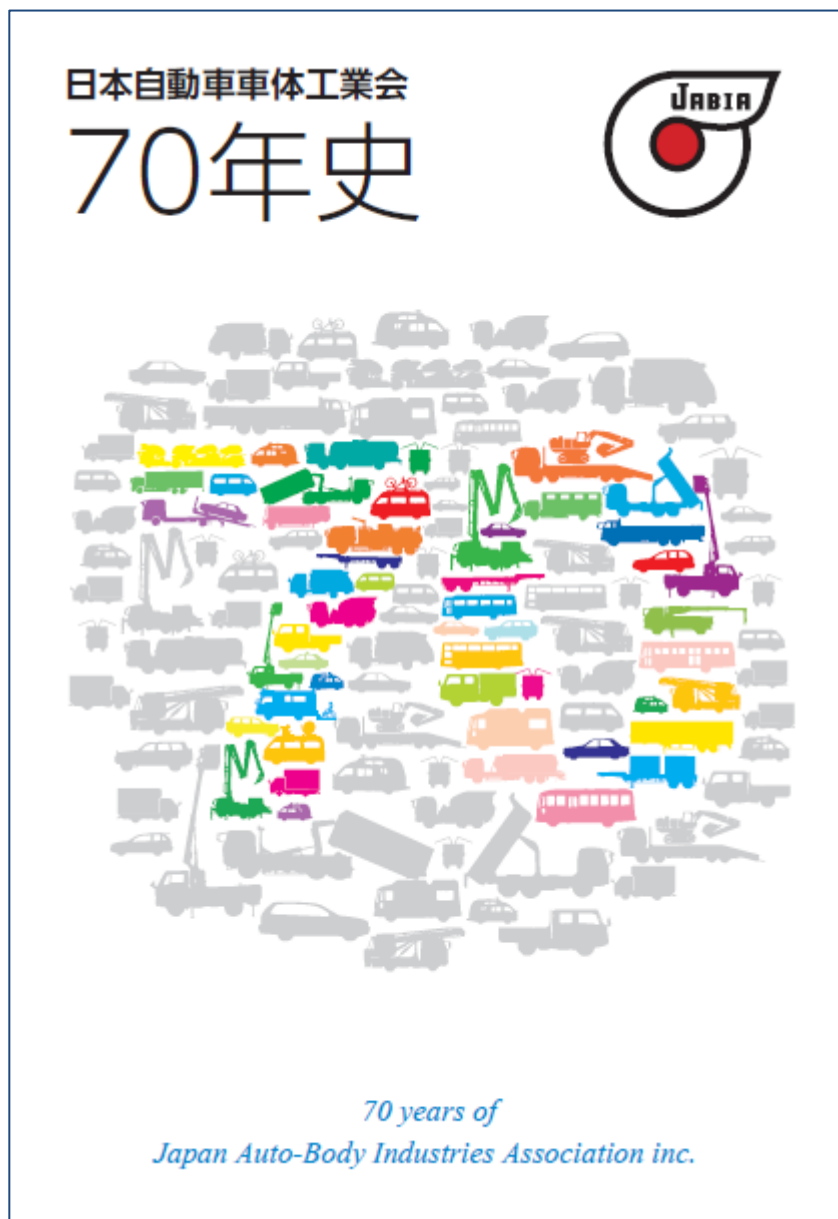
一方、少子高齢化は車体架装においても人材確保などに影響を及ぼしています。技術、技能の伝承では自社の取組みだけでは難しくなりつつあるとの話も聞かれ、会員支援活動の更なる充実に取り組んでいかなければならないと考えております。自動運転技術の進展が「働くクルマ」に求めるものも創造をめぐらし、想定しなければなりません。安全は全ての基本です。そして、その基本の上にもどのような付加価値をつけていくのかが問われることとなります。これは社会からの期待でもあり、これまで以上に期待に応えていくことが当工業会の役割であると思えます。

当工業会は2008年に「60年史」を発刊しました。今回の「70年史」は、2008年からの10年間を中心にまとめました。この10年間は経済では、リーマン・ブラザーズ・ホールディングスが経営破綻したことに端を発し金融危機を経験し、自然災害では2011年の東日本大震災をはじめ国内外で大きな災害が発生しました。自然災害では「働くクルマ」が災害支援・復旧・復興で大きな役割を果たしました。

これまで車体業界が困難な局面を乗り越えて来られたのは、会員の協力、支援、更には関係官庁、関係団体のご指導、ご支援の賜物です。ここにあらためて厚く感謝申し上げます。

今後とも当工業会に対しまして、関係各位のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

日本自動車車体工業会 70年史 表紙



70年史は、当会ホームページ；当会からのお知らせ；報道発表（5.28）「日本自動車車体工業会70年史発刊」のなかで全頁閲覧可能となっています。

（本件の問合せ先）日本自動車車体工業会 事務局 瓜谷（うりや）

一般社団法人 日本自動車車体工業会 〒105-0012 東京都港区芝大門1丁目1番30号 日本自動車会館15階
TEL(03)3578-1681 <http://www.jabia.or.jp/>